

(様式第 10)

高大医医第 7 号
令和 3 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

(開設者)
国立大学法人高知大学長 櫻井 克年

高知大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号
氏 名	国立大学法人高知大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

高知大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮185番地1 電話(088)-866-5811

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
⑨感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
1呼吸器内科、4腎臓内科、6血液内科、7内分泌内科、8代謝内科、10アレルギー疾患内科またはアレルギー科、11リウマチ科については「内科」で提供			
5神経内科については、「脳神経内科」で提供			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 8小児外科	
診療実績 8小児外科については「外科」で提供	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制 本院は開院時より歯科医療機関として認可を受け、適切な体制のもとに歯科診療を行っている。 現在、常勤歯科医師5名、非常勤歯科医師7名が従事しており、令和2年度は1日あたり外来患者64.8人、入院患者10.1人の歯科診療を行っている。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科 2頭頸部外科 3リハビリテーション科 4病理診断科 5脳神経内科 6緩和ケア内科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	床	床	床	583床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	178人	179人	332.6人	看 護 補 助 者	37人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	5人	7人	9.2人	理 学 療 法 士	15人	臨床検査技師	56人
薬 剤 師	29人	0人	29人	作 業 療 法 士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	9人	2人	11人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	566人	70人	612.8人	臨 床 工 学 士	21人	医療社会事業従事者	11人
准 看 護 師	0人	1人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	14人
歯 科 衛 生 士	0人	4人	4人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	184人
管 理 栄 養 士	7人	3人	10人	診 療 放 射 線 技 師	32人	そ の 他 の 職 員	50人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	44人	眼 科 専 門 医	6人
外 科 専 門 医	24人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	7人
精 神 科 専 門 医	8人	放 射 線 科 専 門 医	11人
小 児 科 専 門 医	18人	脳 神 経 外 科 専 門 医	9人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整 形 外 科 専 門 医	18人
泌 尿 器 科 専 門 医	11人	麻 酔 科 専 門 医	11人
産 婦 人 科 専 門 医	13人	救 急 科 専 門 医	3人
		合 計	190人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (執印 太郎) 任命年月日 平成30年4月1日

医療安全管理委員会委員 平成30年4月1日～

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	449.9人	10.1人	460.0人
1日当たり平均外来患者数	985.0人	64.8人	1049.8人
1日当たり平均調剤数	655剤		
必要医師数	111人		
必要歯科医師数	5人		
必要薬剤師数	16人		
必要（准）看護師数	276人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	m ² 254.442	鉄筋コン クリート	病床数	12床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	105.85m ² 台	病床数	6床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	m ² 薬剤管理室			
化学検査室	582 m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 自動血球計数装置 塗沫標本作製装置 血液凝固測定装置 全自動生化学分析装置 自動免疫化学測定装置 血液ガス分析装置 血糖測定装置 ヘモグロビンA1C測定装置 酵素免疫測定装置 肝炎ウイルス関連検査			
細菌検査室	142 m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 炭酸ガス培養装置 孵卵器 自動細菌検査装置 自動血液培養装置 嫌気培養装置 安全キャビネット 高圧蒸気滅菌器			
病理検査室	226 m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) ドラフトチャンバー			
病理解剖室	54 m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 陰圧室、解剖台			
研 究 室	5002 m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 流し台、実験台			
講 義 室	283 m ²	鉄筋コン クリート	室数	1 室	収容定員	264 人
図 書 室	974 m ²	鉄筋コン クリート	室数	8 室	蔵書数	13万 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	77.1%	逆紹介率	71.3%
算出根拠	A：紹介患者の数			10,528人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			10,786人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,131人
	D：初診の患者の数			15,130人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の 要件 該当状況
吉川 清志	土佐希望の家 医療福祉センター施設長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ 無	1
中西 法貴	中西・高野法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・ 無	1
西脇 永敏	高知工科大学 環境理工学群 教授		学識経験を有する者	有・ 無	1
井上 正典	公益財団法人 高知県看護協会 事務長		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ 無	2
瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院 総合診療部 教授		学長が必要と認めた者	有 ・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 本院HPに公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
LDLアフェレシス療法	0人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	12人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	下垂体性PRL分泌亢進症	5
2	筋萎縮性側索硬化症	30	57	クッシング病	3
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12
4	進行性核上性麻痺	18	59	下垂体前葉機能低下症	28
5	パーキンソン病	50	60	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
6	大脳皮質基底核変性症	4	61	アジソン病	1
7	ハンチントン病	2	62	サルコイドーシス	59
8	シャルコー・マリー・トゥース病	4	63	特発性間質性肺炎	15
9	重症筋無力症	52	64	肺動脈性肺高血圧症	7
10	先天性筋無力症候群	4	65	慢性血栓性肺高血圧症	9
11	多発性硬化症／視神経脊髄炎	26	66	リンパ脈管筋腫症	1
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	1	67	網膜色素変性症	11
13	封入体筋炎	1	68	パッド・キアリ症候群	1
14	多系統萎縮症	18	69	原発性胆汁性肝硬変	14
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	42	70	原発性硬化性胆管炎	4
16	ライソゾーム病	8	71	自己免疫性肝炎	5
17	副腎白質ジストロフィー	1	72	クローン病	32
18	ミトコンドリア病	3	73	潰瘍性大腸炎	47
19	もやもや病	15	74	好酸球性消化管疾患	2
20	亜急性硬化性全脳炎	1	75	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	1
21	全身性アミロイドーシス	41	76	先天性ミオパチー	1
22	神経線維腫症	10	77	筋ジストロフィー	8
23	天疱瘡	12	78	遺伝性周期性四肢麻痺	1
24	表皮水疱症	2	79	脊髄空洞症	4
25	膿疱性乾癬(汎発型)	2	80	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	1
26	高安動脈炎	7	81	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
27	巨細胞性動脈炎	6	82	前頭側頭葉変性症	3
28	結節性多発動脈炎	14	83	ラスムッセン脳炎	1
29	顕微鏡的多発血管炎	18	84	結節性硬化症	2
30	多発血管炎性肉芽腫症	4	85	先天性魚鱗癬	1
31	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	86	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
32	悪性関節リウマチ	9	87	特発性後天性全身性無汗症	1
33	パージャール病	2	88	ウィルソン病	4
34	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	89	プラダー・ウィリ症候群	1
35	全身性エリテマトーデス	143	90	単心室症	1
36	皮膚筋炎／多発性筋炎	89	91	三尖弁閉鎖症	1
37	全身性強皮症	88	92	エプスタイン病	1
38	混合性結合組織病	33	93	急速進行性糸球体腎炎	5
39	シェーグレン症候群	24	94	抗糸球体基底膜腎炎	1
40	成人スチル病	11	95	一次性ネフローゼ症候群	36
41	再発性多発軟骨炎	3	96	紫斑病性腎炎	2
42	ベーチェット病	43	97	オスラー病	2
43	特発性拡張型心筋症	27	98	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症	1
44	肥大型心筋症	12	99	フェニルケトン尿症	2
45	再生不良性貧血	8	100	家族性地中海熱	1
46	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	101	強直性脊椎炎	14
47	特発性血小板減少性紫斑病	15	102	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
48	原発性免疫不全症候群	2	103	後天性赤芽球癆	1
49	IgA腎症	40	104	IgG4関連疾患	13
50	多発性嚢胞腎	40	105	レーベル遺伝性視神経症	1
51	黄色靭帯骨化症	12	106	好酸球性副鼻腔炎	19
52	後縦靭帯骨化症	61	107	特発性多中心性キャッスルマン病	5
53	広範脊柱管狭窄症	7	108		
54	特発性大腿骨頭壊死症	30	109		
55	下垂体性ADH分泌異常症	8	110		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2(HCU)(SCU)
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2イ・4イ
・特定機能病院入院基本料(一般7:1)	・入退院支援加算1(入院時支援加算・総合機能評価加算・地域連携診療計画加算)
・特定機能病院入院基本料(精神13:1 看護補助2)	・入退院支援加算3
・救急医療管理加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・精神科急性期医師配置加算2イ
・医師事務作業補助体制加算1(25対1)	・地域医療体制確保加算
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・特定集中治療室管理料1及び(早期離床・リハビリテーション加算)
・看護職員夜間配置加算(12対1口)	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・療養環境加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・無菌治療室管理加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算2	・小児入院医療管理料2及び(プレイルーム加算)
・緩和ケア診療加算	・入院時食事療養/生活療養(I)
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1及び(地域連携加算)(抗菌薬適正使用支援加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び 歯科治療時医療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇式注入シリンジポンプと連動し ない持続血糖測定器を用いる場合)
・ウイルス疾患指導料	・遺伝学的検査
・外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	・有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタ リング加算	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・糖尿病合併症管理料	・精密触覚機能検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来緩和ケア管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・婦人科特定疾患治療管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・院内トリアージ実施料	・検体検査管理加算(IV)
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看 護体制加算1	・国際標準検査管理加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・胎児心エコー法
・開放型病院共同指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん治療連携計画策定料	・ヘッドアップティルト試験
・肝炎インターフェロン治療計画料	・人工臓器検査、人工臓器療法
・ハイリスク妊産婦連携指導料1・2	・脳波検査判断料1
・薬剤管理指導料	・単線維筋電図
・医療機器安全管理料1・2	・神経学的検査
・医療機器安全管理料(歯科)	・補聴器適合検査
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看 護・指導料	・小児食物アレルギー負荷検査
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・持続血糖測定器加算 (間歇式注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる 場合)及び皮下連続式グルコース測定	・画像診断管理加算1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・画像診断管理加算2	・レーザー機器加算
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・硬膜外自家血注入
・CT撮影及びMRI撮影	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・冠動脈CT撮影加算	・導入期加算1
・心臓MRI撮影加算	・磁気による膀胱等刺激法
・乳房MRI撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・手術時歯根面レーザー応用加算
・外来化学療法加算1	・CAD/CAM冠
・連携充実加算	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2
・無菌製剤処理科	・センチネルリンパ節加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・組織拡張器による再建手術(乳房「再建手術」の場合に限る)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))
・廃用症候群リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る)
・運動器リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・椎間板内酵素注入療法
・がん患者リハビリテーション料	・腫瘍脊椎骨全摘術
・リンパ浮腫複合的治療料	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・集団コミュニケーション療法料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・角膜移植術(内皮移植加算)
・精神科作業療法	・羊膜移植術
・認知療法・認知行動療法1	・緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術[プレートのあるもの])
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・医療保護入院等診療料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・口腔粘膜処置	・人工中耳植込術
・口腔粘膜血管腫凝固術	・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術、人工中耳用材料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下胃切除術及び噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)	・胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を行うものに限る)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科診療に係るもの)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科診療に係るもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・膀胱水圧拡張術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下仙骨隆固定術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・乳房切除術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者の患者に対して行うものに限る。)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・子宮附属器腫瘍摘出術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者の患者に対して行うものに限る。)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・輸血管理料 I
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・輸血適正使用加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・経皮的下肢動脈形成術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算(全乳房)(前立腺)	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・口腔病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科矯正診断料	・
・顎口腔機能診断料(顎変形症[顎離断等の手術を必要とするものに限る]の手術前後における歯科矯正に係わるもの)	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
・FOLFOX6単独療法における血中5-FU濃度モニタリング情報を用いた5-FU投与量の決定	・
・EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)	・
・前眼部三次元画像解析	・
・マルチプレックス遺伝子パネル検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月8回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 5例 / 剖検率 3.6%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
悪性胸膜中皮腫に対するAdSOCS3を用いた新規遺伝子治療の医師主導治験に関する研究	仲 哲治	免疫難病センター	90,090,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脂質代謝を標的とした新規癌治療法の開発	仲 哲治	免疫難病センター	45,500,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
コンピテンシーに基づくアカデミア所属モニターの教育プログラム作成 (分担研究開発課題名:教育プログラム検討)	田井 麻美	次世代医療創造センター	687,986	補 委 東北大学
虚弱高齢者のための児童、生徒参加型高齢者健診と運動器リハモデルに関する研究	永野 靖典	リハビリテーション部	130,000	補 委 黒潮町
慢性外傷性脳症の予兆を示す脳代謝異常の解明	岩佐 瞳	放射線医学	2,470,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
局所進行非小細胞肺癌に対する肺機能画像を用いたオーダーメイド放射線治療法の開発	木村 智樹	放射線医学	2,860,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
加齢に関連する痛みの慢性化機序の解明-脳由来神経栄養因子の役割とその治療応用-	横山 正尚	麻酔科学・集中治療医学	1,560,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
術後せん妄に対する新規治療としての神経ステロイドの有効性	青山 文	麻酔科学・集中治療医学	1,300,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
ICU患者におけるタンパク質量と非窒素カローリーのバランスおよび運動予後の検討	勝又 祥文	麻酔科学・集中治療医学	390,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
全身麻酔による脳内神経炎症機構の解明-高齢者に最適な麻酔法の確立をめざして-	河野 崇	麻酔科学・集中治療医学	4,160,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
NASH発症におけるRAGE発現亢進のメカニズム解明と肝線維化マーカー開発	廣瀬 享	消化器内科学	1,430,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
自然免疫反応からみた1型自己免疫性膵炎の病態解明	内田 一茂	消化器内科学	1,430,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	内田 一茂	消化器内科学	500,000	補 委 九州大学
術前の段階で術後予後を予測する膵癌予後予測マーカーの臨床応用	小笠原 光成	消化器内科学	1,560,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
膵癌細胞の浸潤に関与する糖蛋白質の膵癌診断マーカーへの応用	吉岡 玲子	消化器内科学	1,560,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
浸潤・転移抑制作用を有する膵癌に対する新規核酸化合物の研究開発	谷内 恵介	消化器内科学	1,430,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
新規サイトカインIL-36に着目した急性腎障害の新たな治療戦略と診断法の開発	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	1,040,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病(CKD)に対する全国での普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	900,000	補 委 島根大学
近位尿細管代謝異常と代謝障害センサーの役割に着目した糖尿病性腎症進展の機序解明	藤本 新平	内分泌代謝・腎臓内科学	910,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
ノンコーディングRNAとエクソソーム機能解析から腎臓病の新規治療法を開発する	堀野 太郎	内分泌代謝・腎臓内科学	1,170,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
IgG4関連疾患の画像診断・治療評価法および新規バイオマーカーと予後因子の探索	谷口 義典	内分泌代謝・腎臓内科学	910,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会

小計 21件

糖尿病における肝臓マンノース利用障害	天野 絵梨	内分泌代謝・腎臓内科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
KL-6発現マウスを用いた膠原病肺モデルにおける新規バイオマーカーの動態解析	窪田 哲也	呼吸器・アレルギー内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	窪田 哲也	呼吸器・アレルギー内科学	400,000	補委	富山県衛生研究所
COVID-19感染回復後の後遺障害の実態調査	高松 和史	呼吸器・アレルギー内科学	200,000	補委	日本呼吸器学会
B細胞リンパ腫における新しいCD20陰性化機序の解明	谷口 亜裕子	血液内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
特発性心筋症に関する調査研究	北岡 裕章	老年病・循環器内科学	300,000	補委	九州大学
アミロイドーシスに関する調査研究	北岡 裕章	老年病・循環器内科学	200,000	補委	福井大学
新しい診断戦略を用いた老人性全身性アミロイドーシスの多施設登録研究	北岡 裕章	老年病・循環器内科学	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肥大型心筋症の病因遺伝子解析と病態修飾因子の解明	久保 亨	老年病・循環器内科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
深部脳電気刺激を用いた人工圧受容器反射システムの開発	弘田 隆省	老年病・循環器内科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬に併発するアトピー性皮膚炎・湿疹の病態解明	中島 英貴	皮膚科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬発症におけるランゲルハンス細胞の役割:遊走および抗原提示についての検討	中島 喜美子	皮膚科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
表皮角化細胞の増殖分化を制御する核タンパク質Ahedの分子機能の解明	高石 樹朗	皮膚科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
色素細胞に対するZEB2の役割	寺石 美香	皮膚科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乳幼児期低量紫外線反復暴露のアトピー性皮膚炎発症への影響	山本 真有子	皮膚科学	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
皮膚炎症と発癌:表皮Regnase-1の関与についての研究	佐野 栄紀	皮膚科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
幼少期の摂食問題と精神神経発達障害:スウェーデンと日本に於けるコホート調査	藤枝 幹也	小児思春期医学	7,670,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
日本人若年者に好発する木村病(軟部好酸球肉芽腫)の病因および病態の解明	藤枝 幹也	小児思春期医学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
重症多形漏出性紅斑に関する調査研究	藤枝 幹也	小児思春期医学	1,000,000	補委	奈良県立医科大学
3大認知症の潜在性併存診断とアミロイド排除による正常圧水頭症の長期予後改善研究	數井 裕光	神経精神科学	3,900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
認知症の家族のための「パーソナルBPSDケア電子ノート」と「疾患別認知行動療法プログラム」の開発と効果検証のための研究	數井 裕光	神経精神科学	3,500,000	補委	大阪大学
認知症早期診断のスクリーニング検査としての嗅覚検査に関する研究	櫻林 哲雄	神経精神科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
「前頭葉機能に注目した自動車運転能力評価法の確立と事故予測への適用」を目指す研究	藤戸 良子	神経精神科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
軽度認知障害者を対象とした認知症と成人発達障害の認知機能検査による鑑別	西田 拓洋	神経精神科学	450,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
人工臓臓は外科的糖尿病の糖毒性を解消できるか?	花崎 和弘	外科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
便色判別プログラムを利用した胆道閉鎖症早期発見のためのフィールド実証研究	大島 雅之	外科学	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸音モニタリングシステムを用いた外科手術周術期における新規腸蠕動運動解析法の開発	並川 努	外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
3Dエコーガイド下心拍動下手術器械の開発	渡橋 和政	外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 28件

Glypican-1を標的とした肺癌新規治療薬の開発	上村 直	外科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を	池内 昌彦	整形外科学	200,000	補委	福島県立医科大学
慢性疼痛患者に対する簡便かつ多面的な疼痛感作評価法の開発	池内 昌彦	整形外科学	12,700,000	補委	厚生労働省
医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	泉 仁	整形外科学	320,000	補委	獨協医科大学
ジャイロセンサ内臓タブレット端末を用いた簡易型人工股関節手術支援システムの開発	岡上 裕介	整形外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
変形性膝関節症の痛みの治療ターゲットの解明	阿漕 孝治	整形外科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
VHL病の腎がん発生におけるセカンドヒット遺伝子変異の探索	辛島 尚	泌尿器科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
低温大気圧プラズマの直接照射法による新たな膀胱癌治療法	福原 秀雄	泌尿器科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
エンドトキシンにより誘導されるIgE非依存性アレルギー性結膜炎症状の検討	石田 わか	眼科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
嚥下運動の“見える化”による嚥下障害の病態評価と治療への応用	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
認知症患者における嚥下障害の実態調査および機能評価に基づいた治療戦略	長尾 明日香	耳鼻咽喉科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部扁平上皮癌におけるSOCS1新規遺伝子治療確立のための基礎研究	小森 正博	耳鼻咽喉科学	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
エピジェネティクス関連分子の発現異常によるHPV関連中咽頭癌の発癌機構の解明	山川 泰幸	耳鼻咽喉科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
性差関連因子の解析による膠芽腫の発生や治療抵抗性に関わる新たな経路の同定	上羽 哲也	脳神経外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
siRNA結合ナノパーティクルを用いた膠芽腫に対する標的遺伝子治療法の開発	福井 直樹	脳神経外科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔癌由来エクソソームに発現されるPD-L1の抗腫瘍免疫に及ぼす影響	仙頭 慎哉	歯科口腔外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
薬剤感受性・耐性菌による誤嚥性肺炎に対するバクテリオファージ療法の創出	北村 直也	歯科口腔外科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔潜在的悪性疾患のがん化における細胞老化の関わり	笹部 衣里	歯科口腔外科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ICG蛍光法による血流可視化と人工知能解析を用いた新規食道癌手術再建技術の開発	北川 博之	手術部	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ラット敗血症モデルにおける筋力低下および認知機能障害に対するALAの効果	立岩 浩規	集中治療部	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
休眠がん細胞を標的とした光線力学的療法の開発	中山 沢	光線医療センター	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
炎症性腸疾患の新規バイオマーカーLRGの実臨床への応用	藤本 穰	免疫難病センター	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
癌幹細胞におけるGlypican-1の機能解析と抗体療法への応用	世良田 聡	免疫難病センター	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
透析低血圧を防ぐ非侵襲的血压制御装置の開発	山崎 文靖	検査部	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
漢方薬で糖尿病性サルコペニアを予防する～漢方薬による筋萎縮抑制作用の検討～	石田 智滉	薬剤部	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
外来経口抗菌薬の適正使用へ向けた地域医療連携体制の構築	八木 祐助	薬剤部	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ラメルテオンによるせん妄抑制効果のメカニズムの解明:新規せん妄治療への応用	川田 敬	薬剤部	460,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
痛み由来の神経学的筋力抑制に対抗する新規治療法の確立	小田 翔太	リハビリテーション部	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
神経筋電気刺激を併用した嚥下訓練の有効性とメカニズムに関する筋電図学的研究	中平 真矢	リハビリテーション部	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 29件

嚥下障害患者に対する反射的咳嗽検査の有用性	矢野 衆子	リハビリテーション部	440,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
小腸粘膜障害予想バイオマーカーを用いた抗癌剤による消化管毒性新規予防法の確立	小林 道也	医療管理学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
卵巣癌におけるLSRを介したプラチナ耐性の機序解明と新規治療法開発	船内 雅史	臨床免疫学	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

小計 3件
合計 81件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を入力すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takafumi Taguchi, Takuhiro Kohsaki	内科(内分泌代謝・腎臓)	"Starry Sky" Appearance from Multiple Biliary Hamartomas	N Engl J Med. 2020 Apr 16;382(16):e33.	Letter
2	T Horino, H, Nishikawa, S, Inotani, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Anti-Ku antibody-related scleroderma- polymyositis overlap syndrome associated with thrombocytopenia	QJM. 2020 May 1;113(5):349- 350.	Case report
3	Taro Horino, Osamu Ichii, Satoshi Inotani, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Hepatitis C Virus-Associated Cryoglobulinemic Vasculitis	Am J Med. 2020 Jul;133(7):e367- e368.	Review
4	Kazu Hamada- Ode, Mitsuharu Yoshida, Yoshio Terada, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Is serum cholinesterase level a predictor of the extent of organ involvement in immunoglobulin G4-related disease?	Rheumatol Adv Pract. 2020 Jul 7;4(2):rkaa031.	Original Article
5	Yoshinori Taniguchi, Yuki Osakabe, Yoshio Terada	内科(内分泌代謝・腎臓)	Atypical extensive pancreatic pseudocyst with hemorrhage in a hemodialysis patient	Radiol Case Rep. 2020 Jul 2;15(9):1415- 1418.	Case report
6	Shogo Funakoshi, Kumiko Yoshimura, Seiki Hirano, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Undercarboxylated osteocalcin correlates with insulin secretion in Japanese individuals with diabetes	Diabetol Metab Syndr. 2020 Aug 17;12:72.	Original Article
7	Taro Horino, Takeshi Kashio, Satoshi Inotani, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Overhanging Edge Bone Erosion in Chronic Tophaceous Gout	Intern Med. 2020 Sep 15;59(18):2335- 2336.	Case report
8	Taro Horino, Osamu Ichii, Yoshio Terada	内科(内分泌代謝・腎臓)	Anomalous Inferior Vena Cava in a Patient With Limited Cutaneous Systemic Sclerosis and Primary Biliary Cholangitis	J Clin Rheumatol. 2020 Sep;26(6):e203.	Case report
9	Taro Horino, Motohiro Kawasaki	内科(内分泌代謝・腎臓)	A Case Involving a Plexiform Xanthomatous Tumor in a Japanese Man	J Clin Rheumatol. 2020 Sep;26(6):e190-e191.	Case report
10	Taro Horino, Motohiro Kawasaki	内科(内分泌代謝・腎臓)	Hydroxychloroquine-Associated Hyperpigmentation in Chilblain Lupus Erythematosus	J Clin Rheumatol. 2020 Sep;26(6):e192.	Case report

11	Taro Horino, Tatsuki Matsumoto, Osamu Ichii, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Long-term Imaging Findings on Serial FDG PET/CT Scans in a Patient With Polymyositis	J Clin Rheumatol. 2020 Sep;26(6):e174-e175.	Case report
12	Taro Horino, Osamu Ichii, Yoshio Terada	内科(内分泌代謝・腎臓)	Antineutrophil Cytoplasmic Antibody- Associated Hypertrophic Pachymeningitis Mimicking Petroclival Meningioma	J Clin Rheumatol. 2020 Sep;26(6):e153-e154.	Case report
13	Taro Horino, Osamu Ichii, Tatsuki Matsumoto, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Takayasu Arteritis Presenting as Renovascular Hypertension	J Clin Rheumatol. 2020 Aug;26(5):e94.	Case report
14	Taro Horino, Osamu Ichii, Yoshio Terada	内科(内分泌代謝・腎臓)	Suppurative Osteomyelitis Incorrectly Diagnosed as Rheumatoid Arthritis	J Clin Rheumatol. 2020 Oct;26(7):e261- e263.	Case report
15	Taro Horino, Satoshi Inotani, Tatsuki Matsumoto, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Reactive Arthritis Caused by Rothia mucilaginosa in an Elderly Diabetic Patient	J Clin Rheumatol. 2020 Dec;26(8):e303- e304.	Case report
16	Yoshinori Taniguchi, Hirofumi Nishikawa	内科(内分泌代謝・腎臓)	Iliopsoas Muscle Involvement due to Granulomatosis with Polyangiitis	J Rheumatol. 2020 Oct 1;47(10):1582- 1583.	Letter
17	Taro Horino, Osamu Ichii	内科(内分泌代謝・腎臓)	Distal Phalanx Osteolysis and Subcutaneous Calcinosis in CREST Syndrome	J Clin Rheumatol. 2021 Jan 1;27(1):e22.	Case report
18	Taro Horino, Osamu Ichii	内科(内分泌代謝・腎臓)	Antineutrophil cytoplasmic antibody- associated vasculitis in diffuse large B cell lymphoma	Nefrologia (Engl Ed). Mar-Apr 2021;41(2):215-216.	Case report
19	Kensuke Kojima, Jan A Burger	内科(血液)	Treatment algorithm for Japanese patients with chronic lymphocytic leukemia in the era of novel targeted therapies	J Clin Exp Hematop. 2020 Dec 15;60(4):130- 137.	Review
20	Makoto Nakamura, Kyosuke Saeki, Ryoko Egashira, 他	内科(血液)	Gastric emphysema in chemosensitive gastric diffuse large B cell lymphoma	Ann Hematol. 2020 Oct;99(10):2457- 2458.	Letter
21	Kyosuke Saeki, Makoto Nakamura, Ryoko Egashira, 他	内科(血液)	Primary pulmonary diffuse large B cell lymphoma presenting as bulky bilateral lung tumors	Ann Hematol. 2021 Feb;100(2):577-578.	Letter

22	Kazufumi Takamatsu, Hiroshi Ohnishi, Akihito Yokoyama	内科(呼吸器)	Air Pericardial Tamponade Caused by Lung Cancer	Intern Med. 2020 Dec 1;59(23):3109-3110.	Case report
23	Kazufumi Takamatsu, Kaechang Park, Akihito Yokoyama	内科(呼吸器)	Association between airflow limitation and leukoaraiosis of the brain	Respir Investig. Epub 2020 Dec 11.	Original Article
24	Hiroaki Kitaoka, Toru Kubo, Yoshinori L Doi	内科(老年病・循環器)	Hypertrophic Cardiomyopathy – A Heterogeneous and Lifelong Disease in the Real World	Circ J. 2020 Jul 22;84(8):1218-1226.	Review
25	Hiroaki Kitaoka, Chisato Izumi, Yasuhiro Izumiya, 他	内科(老年病・循環器)	JCS 2020 Guideline on Diagnosis and Treatment of Cardiac Amyloidosis	Circ J. 2020 Aug 25;84(9):1610-1671.	Others
26	Toru Kubo, Yuri Ochi, Yuichi Baba, 他	内科(老年病・循環器)	Elevation of high-sensitivity cardiac troponin T and left ventricular remodelling in hypertrophic cardiomyopathy	ESC Heart Fail. 2020 Oct 12;7(6):3593-3600.	Original Article
27	Toru Kubo, Yuichi Baba, Yuri Ochi, 他	内科(老年病・循環器)	Sudden Cardiac Death-Relevant Events of Hypertrophic Cardiomyopathy in a Regional Japanese Cohort – Results From the Kochi RYOMA Study	Circ Rep. 2020 Jul 2;2(8):433-439.	Original Article
28	Yuichi Baba, Juri Kawaguchi, Yuri Ochi, 他	内科(老年病・循環器)	The diaphragm affects echocardiographic measurement of inferior vena cava diameter to predict right atrial pressure	J Med Ultrason (2001). 2020 Oct;47(4):565-573.	Original Article
29	Yuichi Baba, Yuri Ochi, Takayoshi Hirota, 他	内科(老年病・循環器)	What we believed to be a right upper pulmonary vein by transthoracic echocardiography is actually a right lower pulmonary vein	Echocardiography. 2021 Mar;38(3):427-434.	Original Article
30	Yuri Ochi, Toru Kubo, Yuichi Baba, 他	内科(老年病・循環器)	Prediction of Medium-Term Mortality in Japanese Patients With Wild-Type Transthyretin Amyloidosis	Circ Rep. 2020 Apr 29;2(6):314-321.	Original Article
31	Yuri Ochi, Toru Kubo, Yuichi Baba, 他	内科(老年病・循環器)	Validation of the Kumamoto criteria for prediction of 99m technetium pyrophosphate scintigraphy positivity as a strategy for diagnosis of transthyretin cardiac amyloidosis: A retrospective cohort study in Kochi	J Cardiol. 2021 Feb;77(2):124-130.	Original Article
32	Yuri Ochi, Naohito Yamasaki, Yuichi Baba, 他	内科(老年病・循環器)	A single atrial septal defect masquerading as multiple defects due to a refraction artifact – A cautionary note	J Cardiol Cases. 2020 Apr 27;22(2):55-58.	Case report

33	Motoko Ueda, Toru Kubo, Yuri Ochi, 他	内科(老年病・循環器)	Preoperative Clinical Features and High Pulmonary Wedge Pressure with a Discordant Pattern as Prognostic Factor in Hemodialysis Patients with Severe Aortic Valve Stenosis	Int Heart J. 2020 Jul 30;61(4):720-726.	Original Article
34	Toshihiro Moriki, Toru Kubo, Kenta Sugiura, 他	内科(老年病・循環器)	A Validation Study of the Mayo Clinic Phenotype-Based Genetic Test Prediction Score for Japanese Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy	Circ J. Epub 2021 Jan 23.	Original Article
35	Kenta Sugiura, Toru Kubo, Yuri Ochi, 他	内科(老年病・循環器)	Cardiac manifestations and effects of enzyme replacement therapy for over 10 years in adults with the attenuated form of mucopolysaccharidosis type I	Mol Genet Metab Rep. 2020 Oct 20;25:100662.	Original Article
36	Yasumasa Kawada, Toru Kubo, Yuichi Baba, 他	内科(老年病・循環器)	Effects of Switching from Treatment with Amlodipine and Atorvastatin Using Two Pills to an Equal Dose of Single-Pill Therapy in Japanese Outpatients	Acta Med Okayama. 2020 Apr;74(2):103-108.	Original Article
37	Yasuteru Nakashima, Toru Kubo, Kenta Sugiura, 他	内科(老年病・循環器)	Lifelong Clinical Impact of the Presence of Sarcomere Gene Mutation in Japanese Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy	Circ J. 2020 Sep 25;84(10):1846-1853.	Original Article
38	Yasushi Osaki, Yukari Morita, Yuka Miyamoto, 他	内科(脳神経)	Identification of a pre-possible multiple system atrophy phase	Acta Neurol Scand. 2021 Mar;143(3):313-317.	Original Article
39	Masaki Yamamoto, Takahiro Shimizu, Suo Zou, 他	小児科	rain hydrogen sulfide suppresses the micturition reflex via brain GABA receptors in rats	Nitric Oxide. 2020 Nov 1;104-105:44-50.	Original Article
40	Tetsuo Kashibayashi, Ryuichi Takahashi, Jun Fujita, 他	精神科	Correlation between cerebral blood flow and olfactory function in mild cognitive impairment and Alzheimer's disease	Int J Geriatr Psychiatry. Epub 2021 Mar 10.	Original Article
41	Yuka Shibata, Toshio Okamoto, Takao Saruta, 他	皮膚科	De novo novel splice-site mutation in FLT4/VEGFR3 is associated with Milroy disease	J Dermatol. 2021 Jan;48(1):e26-e28.	Letter
42	Tatsushi Ishimoto, Mikiro Takaishi, Masahiro Ishizuka, 他	皮膚科	Photodynamic therapy selectively eradicates ultraviolet B-induced squamous cell carcinoma lesion through rapid apoptosis to restore normal epidermis in a mouse model	J Dermatol. 2021 Feb;48(2):245-247.	Original Article
43	Mika Teraishi, Tokuko Oguro, Ema Kusume, 他	皮膚科	Pralatrexate for refractory mycosis fungoides in two Japanese patients	J Dermatol. Epub 2021 Jan 16.	Case report

44	Hideki Nakajima, Kimiko Nakajima, Satoshi Serada, 他	皮膚科	The Skin-Liver Axis Modulates the Psoriasiform Phenotype and Involves Leucine-Rich α -2 Glycoprotein	J Immunol. Epub 2021 Mar 1.	Original Article
45	Hideki Nakajima, Kimiko Nakajima, Satoshi Serada, 他	皮膚科	The involvement of leucine-rich α -2 glycoprotein in the progression of skin and lung fibrosis in bleomycin-induced systemic sclerosis model	Mod Rheumatol. 2021 Feb 17;1-10.	Original Article
46	Hitomi Maeda, Kenji Kajiwara, Rika Yoshimatsu, 他	放射線診断科	Artificially induced pneumothorax with a Veress needle for cryoablation of renal cell carcinoma	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2020 Sep 9;1-4.	Case report
47	Miki Nishimori, Rika Yoshimatsu, Hitomi Iwasa, 他	放射線診断科	Evaluation of pleural lesions after pleurodesis with OK-432 by fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/CT	Ann Nucl Med. 2020 Oct;34(10):793-798.	Original Article
48	Tomoaki Yamanishi, Hiroki Minamiguchi, Rika Yoshimatsu, 他	放射線診断科	A case of maxillary cancer treated by intra-arterial therapy using a steerable microcatheter	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2021 Jan 8;1-4.	Case report
49	Tomoki Kimura, Atsuya Takeda, Yuichiro Tsurugai, 他	放射線治療科	A Multi-Institutional Retrospective Study of Repeated Stereotactic Body Radiation Therapy for Intrahepatic Recurrent Hepatocellular Carcinoma	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2020 Dec 1;108(5):1265-1275.	Original Article
50	Tomoki Kimura, Atsuya Takeda, Naoko Sanuki, 他	放射線治療科	Multicenter prospective study of stereotactic body radiotherapy for previously untreated solitary primary hepatocellular carcinoma: The STRSPH study	Hepatol Res. Epub 2021 Mar 1.	Original Article
51	Tomoki Kimura	放射線治療科	Hypofractionated radiotherapy for hepatocellular carcinoma adjacent to the gastrointestinal tract	Hepatol Res. 2021 Mar;51(3):249-250.	Review
52	Sunao Uemura, Tsutomu Namikawa, Kazune Fujisawa, 他	消化器外科	A case of advanced hepatocellular carcinoma with gallbladder invasion	Jpn J Clin Oncol. 2020 May 5;50(5):623-625.	Case report
53	Hiroyuki Kitagawa, Tsutomu Namikawa, Jun Iwabu, 他	消化器外科	Correlation between indocyanine green visualization time in the gastric tube and postoperative endoscopic assessment of the anastomosis after esophageal surgery	Surg Today. 2020 Nov;50(11):1375-1382.	Original Article
54	Jun Iwabu, Tsutomu Namikawa, Keiichiro Yokota, 他	消化器外科	Successful management of aorto-esophageal fistula caused by esophageal cancer using thoracic endovascular aortic repair	Clin J Gastroenterol. 2020 Oct;13(5):678-682.	Case report

55	Tsutomu Namikawa, Jun Iwabu, Motoi Hashiba, 他	消化器外科	Novel endoscopic marking clip equipped with resin-conjugated fluorescent indocyanine green during laparoscopic surgery for gastrointestinal cancer	Langenbecks Arch Surg. 2020 Jun;405(4):503-508.	Original Article
56	Nobuhisa Tanioka, Hiromichi Maeda, Sachi Tsuda, 他	消化器外科	A case of spontaneous mesenteric hematoma with diagnostic difficulty	Surg Case Rep. 2020 Jun 1;6(1):124.	Case report
57	Tsutomu Namikawa, Motoi Hashiba, Hiroyuki Kitagawa, 他	消化器外科	Innovative marking method using novel endoscopic clip equipped with fluorescent resin to locate gastric cancer	Asian J Endosc Surg. Epub 2020 Jul 27.	Case report
58	Tsutomu Namikawa, Jun Iwabu, Masaya Munekage, 他	消化器外科	Evolution of photodynamic medicine based on fluorescence image-guided diagnosis using indocyanine green and 5-aminolevulinic acid	Surg Today. 2020 Aug;50(8):821-831.	Review
59	Keiichiro Yokota, Tsutomu Namikawa, Masahiro Maeda, 他	消化器外科	Synchronous duodenal mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma and gastric cancer	Clin J Gastroenterol. 2021 Feb;14(1):109-114.	Case report
60	Tsutomu Namikawa, Masahiro Maeda, Keiichiro Yokota, 他	消化器外科	Assessment of Systemic Inflammatory Response and Nutritional Markers in Patients With Trastuzumab-treated Unresectable Advanced Gastric Cancer	In Vivo. Sep-Oct 2020;34(5):2851-2857.	Original Article
61	Tsutomu Namikawa, Jun Iwabu, Masaya Munekage, 他	消化器外科	Laparoscopic-endoscopic cooperative surgery for early gastric cancer with gastroesophageal varices	Asian J Endosc Surg. 2020 Oct;13(4):539-543.	Case report
62	Maho Ogawa, Tsutomu Namikawa, Toyokazu Oki, 他	消化器外科	Evaluation of Perioperative Intestinal Motility Using a Newly Developed Real-Time Monitoring System During Surgery	World J Surg. 2021 Feb;45(2):451-458.	Original Article
63	Tsutomu Namikawa, Keiichiro Yokota, Jun Iwabu, 他	消化器外科	Incidence and risk factors of osteoporotic status in outpatients who underwent gastrectomy for gastric cancer	JGH Open. 2020 Apr 23;4(5):903-908.	Original Article
64	Hiromichi Maeda, Ken-Ichi Okada, Tsutomu Fujii, 他	消化器外科	No Significant Effect of Daikenchuto (TJ-100) on Peritoneal IL-9 and IFN- γ Levels After Pancreaticoduodenectomy	Clin Exp Gastroenterol. 2020 Oct 19;13:461-466.	Original Article
65	Tsutomu Namikawa, Keiichiro Yokota, Nobuhisa Tanioka, 他	消化器外科	Systemic inflammatory response and nutritional biomarkers as predictors of nivolumab efficacy for gastric cancer	Surg Today. 2020 Nov;50(11):1486-1495.	Original Article

66	Ian Fukudome, Hiromichi Maeda, Ken Okamoto, 他	消化器外科	The safety of early versus late ileostomy reversal after low anterior rectal resection: a retrospective study in 47 patients	Patient Saf Surg. 2021 Jan 10;15(1):7.	Others
67	Kazuhiro Hanazaki	消化器外科	Conference report: Communication on the 58th Annual Meeting of the Japanese Society for Artificial Organs in 2020	Artif Organs. 2021 Jan;45(1):97-100.	Original Article
68	Tsutomu Namikawa, Masahiro Maeda, Keiichiro Yokota, 他	消化器外科	Enteral Vitamin B12 Supplementation Is Effective for Improving Anemia in Patients Who Underwent Total Gastrectomy	Oncology. Epub 2021 Feb 18.	Original Article
69	Tsutomu Namikawa, Shigeto Shimizu, Keiichiro Yokota, 他	消化器外科	Isolated adrenocorticotrophic hormone deficiency induced by nivolumab treatment for advanced gastric cancer	Clin J Gastroenterol. 2021 Mar 14.	Case report
70	Tsutomu Namikawa, Masahiro Maeda, Keiichiro Yokota, 他	消化器外科	Laparoscopic Distal Gastrectomy for Synchronous Gastric Cancer and Gastrointestinal Stromal Tumor With Situs Inversus Totalis	In Vivo. Mar-Apr 2021;35(2):913-918.	Original Article
71	Takashi Anayama, Kentaro Hirohashi, Ryohei Miyazaki, 他	呼吸器外科	Fluorescence visualization of the intersegmental plane by bronchoscopic instillation of indocyanine green into the targeted segmental bronchus: determination of the optimal settings	J Int Med Res. 2021 Feb;49(2):3000605219902 02.	Original Article
72	Takashi Anayama, Marino Yamamoto, Kentaro Hirohashi, 他	呼吸器外科	The accuracy of cone-beam computed tomography and augmented fluoroscopy-guided bronchoscopic marking of multiple small-sized pulmonary nodules in a hybrid operating room: a retrospective cohort study	Quant Imaging Med Surg. 2021 Feb;11(2):725-736.	Original Article
73	Takashi Anayama, Kentaro Hirohashi, Ryohei Miyazaki	呼吸器外科	A case of symmetric bilateral Müllerian cysts at the same thoracic vertebral level	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2020 Aug 1;31(2):283.	Case report
74	Takashi Anayama, Takayuki Sato, Kentaro Hirohashi,	呼吸器外科	Near-infrared fluorescent solid material for visualizing indwelling devices implanted for medical use	Surg Endosc. 2020 Sep;34(9):4206-4213.	Original Article
75	Tomoaki Yatabe, Takashi Karashima, Motohiko Kume, 他	麻醉科	Identification of risk factors for post-induction hypotension in patients receiving 5-aminolevulinic acid: a single-center retrospective study	JA Clin Rep. 2020 May 12;6(1):35.	Original Article
76	Yusuke Okanoue, Koji Aso, Junpei Dan, 他	整形外科	Accuracy of acetabular cup placement using an angle-adjusting alignment guide with laser pointer in total hip arthroplasty	J Orthop Surg (Hong Kong). 2020 Sep-Dec 2020;28(3):2309499020962 860.	Original Article

77	K Aso, S M Shahtaheri, R Hill, 他	整形外科	Contribution of nerves within osteochondral channels to osteoarthritis knee pain in humans and rats	Osteoarthritis Cartilage. 2020 Sep;28(9):1245-1254.	Original Article
78	Koji Aso, Masahiko Ikeuchi, Shogo Takaya, 他	整形外科	Chronic postsurgical pain after total knee arthroplasty: A prospective cohort study in Japanese population	Mod Rheumatol. 2021 Jan 18;1-11.	Original Article
79	Koji Aso, Seyed Mohsen Shahtaheri, Daniel F McWilliams, 他	整形外科	Association of subchondral bone marrow lesion localization with weight-bearing pain in people with knee osteoarthritis: data from the Osteoarthritis Initiative	Arthritis Res Ther. 2021 Jan 19;23(1):35.	Original Article
80	Shota Oda, Masashi Izumi, Shogo Takaya, 他	整形外科 (リハビリテーション部)	Promising Effect of Visually-Assisted Motor Imagery Against Arthrogenic Muscle Inhibition - A Human Experimental Pain Study	J Pain Res. 2021 Feb 3;14:285-295.	Original Article
81	Ken Fukuda	眼科	Corneal fibroblasts: Function and markers	Exp Eye Res. 2020 Nov;200:108229.	Review
82	Atsuki Fukushima	眼科	Current research progress in allergic conjunctival diseases	Allergol Int. 2020 Oct;69(4):485-486.	Review
83	Tatsuma Kishimoto, Waka Ishida, Tadahiro Nasukawa, 他	眼科	In Vitro and In Vivo Evaluation of Three Newly Isolated Bacteriophage Candidates, phiEF7H, phiEF14H1, phiEF19G, for Treatment of Enterococcus faecalis Endophthalmitis	Microorganisms. 2021 Jan 20;9(2):212.	Original Article
84	Masamitsu Hyodo, Asuka Nagao, Kento Asano, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Botulinum toxin injection into the intrinsic laryngeal muscles to treat spasmodic dysphonia: A multicenter, placebo-controlled, randomized, double-blinded, parallel-group comparison/open-label clinical trial	Eur J Neurol. Epub 2021 Jan 23.	Original Article
85	Masamitsu Hyodo, Yasuo Hisa, Noriko Nishizawa, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The prevalence and clinical features of spasmodic dysphonia: A review of epidemiological surveys conducted in Japan	Auris Nasus Larynx. Epub 2020 Aug 26.	Original Article
86	Eiichi Nakai, Hitoshi Fukuda, Yu Kawanishi, 他	脳神経外科	The Cervical Spine as a Predominant Site of Cerebrospinal Fluid Leak: Preliminary Results Using the Overflow Leak Test	World Neurosurg. 2020 Oct;142:e372-e377.	Original Article
87	Keita Matsuoka, Eiichi Nakai, Yu Kawanishi, 他	脳神経外科	Acute Deterioration in a Patient with Bilateral Chronic Subdural Hematomas Associated with Intracranial Hypotension Treated with an Epidural Blood Patch	World Neurosurg. 2020 Sep;141:331-334.	Case report

88	Naoki Fukui, Toshio Yawata, Takahito Nakajo, 他	脳神経外科	Targeting CD146 using folic acid-conjugated nanoparticles and suppression of tumor growth in a mouse glioma model	J Neurosurg. 2020 Jul 24;1-11.	Original Article
89	Yuhei Shiba, Kenji Tamura, Yosuke Fukiishi, 他	泌尿器科	Well-differentiated liposarcoma of the spermatic cord: A case report	Urol Case Rep. 2021 Jan 29;36:101587.	Case report
90	Hideo Fukuhara, Shinkuro Yamamoto, Takashi Karashima, 他	泌尿器科	Photodynamic diagnosis and therapy for urothelial carcinoma and prostate cancer: new imaging technology and therapy	Int J Clin Oncol. 2021 Jan;26(1):18-25.	Review
91	Takashi Karashima, Naoto Kuroda, Takahiro Taguchi, 他	泌尿器科	Oncocytic variant, a novel subtype of chromophobe renal cell carcinoma: a report of two cases and a literature review	Int Cancer Conf J. 2020 Dec 1;10(2):100-106.	Case report
92	Shinkuro Yamamoto, Hideo Fukuhara, Takashi Karashima, 他	泌尿器科	Real-world experience with 5-aminolevulinic acid for the photodynamic diagnosis of bladder cancer: Diagnostic accuracy and safety	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2020 Dec;32:101999.	Case report
93	Taku Nakayama, Naoko Nozawa, Chiaki Kawada, 他	泌尿器科	Mitomycin C-induced cell cycle arrest enhances 5-aminolevulinic acid-based photodynamic therapy for bladder cancer	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2020 Sep;31:101893.	Case report
94	Ryu Shigehisa, Takashi Karashima, Shu Kobayashi, 他	泌尿器科	Synchronous bilateral renal cell carcinomas with differing histologies	IJU Case Rep. 2020 Jun 28;3(5):196-199.	Case report
95	Naoya Kitamura, Eri Sasabe, Shigenobu Matsuzaki, 他	歯科口腔外科	Characterization of two newly isolated Staphylococcus aureus bacteriophages from Japan belonging to the genus Silviavirus	Arch Virol. 2020 Oct;165(10):2355-2359.	Original Article
96	Naoya Kitamura, Shinya Sento, Yasumasa Yoshizawa, 他	歯科口腔外科	Current Trends and Future Prospects of Molecular Targeted Therapy in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma	Int J Mol Sci. 2020 Dec 29;22(1):240.	Original Article
97	Riki Tomita, Eri Sasabe, Ayumi Tomomura, 他	歯科口腔外科	Macrophage-derived exosomes attenuate the susceptibility of oral squamous cell carcinoma cells to chemotherapeutic drugs through the AKT/GSK-3 β pathway	Oncol Rep. 2020 Nov;44(5):1905-1916.	Original Article
98	Satoko Kitamura, Masahide Matsushita, Naoki Komatsu, 他	総合診療部	Impact of repeated yearly vaccination on immune responses to influenza vaccine in an elderly population	Am J Infect Control. 2020 Dec;48(12):1422-1425.	Original Article

99	Kei Kawada, Tsuyoshi Ohta, Hitoshi Fukuda, 他	薬剤部	Effect of lubiprostone on vinca alkaloid-induced constipation in patients with hematological malignancies: a propensity score-matched analysis	Ann Hematol. 2020 Oct;99(10):2429-2436.	Original Article
100	Tomoaki Ishida, Kei Kawada, Shumpei Morisawa, 他	薬剤部	Risk Factors for Pseudoaldosteronism with Yokukansan Use: Analysis Using the Japanese Adverse Drug Report (JADER) Database	Biol Pharm Bull. 2020;43(10):1570-1576.	Original Article
101	Hitomi Komatsu, Mariko Enomoto, Hisashi Shiraiishi, 他	薬剤部	Severe hypoglycemia caused by a small dose of repaglinide and concurrent use of nilotinib and febuxostat in a patient with type 2 diabetes	Diabetol Int. 2020 Apr 8;11(4):388-392.	Case report
102	Ryotaro Tokorodani, Hiromitsu Daisaki, Okada Yukinori, 他	放射線部	Effect of position and volume of spaceoccupying liver lesions on liver function index in 99mTc-GSA scintigraphy	Nucl Med Rev Cent East Eur. 2021;24(1):1-10.	Original Article
103	Atsushi Kurabayashi, Waka Iwashita, Chiharu Tanaka, 他	病理診断部	Murine remote ischemic preconditioning suppresses diabetic ketoacidosis by enhancing glycolysis and entry into tricarboxylic acid cycle in the liver	Life Sci. 2020 Jul 15;253:117748.	Original Article
104	Waka Iwashita, Atsushi Kurabayashi, Chiharu Tanaka, 他	病理診断部	Superficial Angiomyxoma of the Nipple in a Japanese Woman: A Case Report and Review of Literature	Int J Surg Pathol. 2020 Sep;28(6):683-687.	Case report
105	Chiharu Tanaka, Atsushi Kurabayashi, Kaoru Furihata, 他	病理診断部	Cutaneous acantholytic dyskeratotic acanthoma accompanying syringofibroadenomatous hyperplasia with proliferation of mature sebocytes: A case report	J Cutan Pathol. 2021 Mar;48(3):451-454.	Case report

計105件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の構成、倫理委員会の運営、審査手順、有害事象対応、各種報告について、記録の保存・公表	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 対象者の範囲、マネージメントの対象、マネージメント委員会の設置、調査、資料の保存 学外への情報公開	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年11回
・ 研修の主な内容 臨床研究概論、研究デザイン、統計手法、臨床研究倫理、被験者保護、利益相反、データ マネジメント、品質管理/品質保証、法規指針、等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・原発性肝癌に対するラジオ波熱凝固療法 ・内視鏡的食道静脈瘤硬化療法
- ・経カテーテル的肝動脈化学塞栓術 ・部分的脾動脈塞栓術
- ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的閉塞術 ・経皮的肝嚢胞固定術
- ・消化管悪性腫瘍に対する拡大内視鏡診断 ・消化管の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術
- ・消化管出血に対する内視鏡的止血術 ・内視鏡的胆道ドレナージ
- ・内視鏡的膵管ドレナージ ・経皮的胆道(胆嚢、胆管)ドレナージ ・超音波内視鏡下吸引針生検
- ・難治性膠原病に対する血液浄化療法 ・難治性膠原病に対する免疫グロブリン療法
- ・難治性膠原病に対する生物製剤治療 ・甲状腺穿刺細胞診 ・内分泌負荷試験の実施
- ・経皮的腎生検 ・持続皮下インスリン注入療法 (CSII)の導入 ・持続血糖測定装置 (CGMS)の実施
- ・超音波気管支鏡を用いた気管支鏡検査 ・超音波気管支鏡を用いた経気管支リンパ節吸引細胞診検査
- ・気管支鏡検査のためのナビゲーション作成 ・非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害療法
- ・悪性胸膜中皮腫に対する免疫チェックポイント阻害療法
- ・難治性気管支喘息に対する気管支サーモプラスチック療法
- ・難治性気管支喘息に対する生物学的製剤治療
- ・同種造血幹細胞移植 ・自家末梢血幹細胞移植 ・DICの診断・治療
- ・冠動脈造影、感度婦脈インターベンション ・デバイス植え込み、アブレーション治療 ・心エコー検査
- ・脳神経内科専門医研修 ・小児腎生検 ・小児心臓カテーテル検査 ・食物経口負荷試験
- ・アトピー性皮膚炎スキンケア ・気管支喘息運動負荷試験 ・四国IVR座談会 (web)
- ・胃癌に対する腹腔鏡下手術 ・食道癌に対する胸腔鏡下手術 ・大腸癌に対する腹腔鏡下手術
- ・原発性肝癌に対する広範囲肝切除 ・膵癌に対する膵頭十二指腸切除
- ・乳癌に対するセンチネルリンパ節生検 ・血管の露出、遮断、切開、吻合手技
- ・心タンポナーデの手術適応判断と心嚢ドレナージ手術 ・末梢動脈疾患に対する血管内治療
- ・急性動脈閉塞症の鑑別診断と緊急血栓摘除術 ・ペースメーカー植込み手術
- ・SSI (外科的創部感染症) に対する排膿ドレナージ術 ・血管損傷に対する血管形成術
- ・末梢動脈疾患に対する血管形成術 ・下肢静脈瘤に対するEVLAと瘤切除術、高位結紮術
- ・超音波気管支鏡下縦隔リンパ節生検 ・抗がん剤感受性試験を用いたオーダーメイドがん化学療法
- ・3DCT画像を応用した対表イメージングによる低侵襲手術 ・完全内視鏡下胸部外科手術
- ・ロボット支援手術の経験 (助手) ・皮膚縫合 (減張縫合・埋没縫合・表皮縫合)
- ・遊離植皮術 (全層植皮・分層植皮) ・皮弁術 (局所皮弁・有茎皮弁・遊離皮弁)
- ・脂肪移植 ・マイクロサージャリー ・乳房再建
- ・講演「医療の質と効率化を両立させるためのPACU」 ・講演「高齢社会における周術期管理の課題」
- ・講演「慢性痛患者に対する麻酔」 ・講演「胸腹部大動脈瘤手術における脊髄虚血保護の基礎・臨床」
- ・講演「非心臓外科手術周術期における循環管理」
- ・講演「非麻酔科医による処置時鎮静・鎮痛:患者安全における麻酔科医の役割」
- ・婦人科骨盤腔内視鏡下手術 ・閉経女性における虚血性心疾患の発症予防を目的としたホルモン補充療法
- ・体外受精 ・子宮内膜症の免疫学的診断 ・内視鏡講習会
- ・多胎、胎盤の異常を伴う帝王切開および母体救命のための子宮全摘術
- ・合併症妊娠や胎児異常の管理と治療
- ・ナビゲーションシステムを用いた上位頸椎部スクリュー固定
- ・腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術
- ・骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する小皮切ペースト状人工骨充填術
- ・股関節臼蓋形成不全に対する低侵襲棚形成術 ・膝靭帯損傷に対する関節鏡下靭帯再建術
- ・肩腱板断裂に対する関節鏡下腱板修復術 ・ナビゲーション人工関節置換術
- ・腰椎分離症に対する最小侵襲手術 ・リバーズ型人工肩関節置換術 ・自家培養軟骨細胞移植術
- ・涙道内視鏡手術 ・加齢黄斑変性に対する光線力学的療法 ・眼内内視鏡を用いた硝子体手術
- ・緑内障インプラント手術 ・耳鼻咽喉科専門研修 ・頭頸部がん専門研修 ・気管食道科専門研修
- ・脳動脈塞栓術 ・解離性脳動脈瘤塞栓術 ・内頸動脈-海綿静脈洞瘻塞栓術

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ニューロナビゲーションを用いた開頭腫瘍摘出術・内頸動脈狭窄症に対するステント留置術・遺伝性腎癌の遺伝子診断・前立腺癌の密封小線源永久挿入療法・前立腺癌の高線量率組織内照射療法・前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術・膀胱癌の光学的診断 |
|---|

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	585人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
内田 一茂	内科（消化器）	教授	27年	
寺田 典生	内科（内分泌代謝・腎臓）	教授	35年	
藤本 新平	内科（内分泌代謝・腎臓）	教授	28年	
横山 彰仁	内科（呼吸器）	教授	36年	
小島 研介	内科（血液）	教授	28年	
北岡 裕章	内科（老年病・循環器）	教授	31年	
古谷 博和	内科（脳神経）	教授	37年	
藤枝 幹也	小児科	教授	35年	
數井 裕光	精神科	教授	30年	
佐野 栄紀	皮膚科	教授	36年	
山上 卓士	放射線科	教授	28年	
花崎 和弘	外科（一）	教授	35年	
河野 崇	麻酔科	准教授	21年	
前田 長正	産科婦人科	教授	34年	
池内 昌彦	整形外科	教授	24年	
福田 憲	眼科	准教授	23年	
兵頭 政光	耳鼻咽喉科	教授	36年	
上羽 哲也	脳神経外科	教授	30年	
井上 啓史	泌尿器科	教授	30年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状		
管理責任者氏名	病院長 執印 太郎			
管理担当者氏名	総務企画課長	西田 浩敏	医療安全管理部長	藤枝 幹也
	医事課長	小林 保数	感染管理部長	山岸 由佳
	総務課長	川崎 美保	臨床工学部長	上羽 哲也
	薬剤部長	宮村 充彦	診療情報管理室長	上羽 哲也
	放射線部長	山上 卓士		

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課	
		各科診療日誌	医事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	医事課	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	(フィルムレス化済み)	
		紹介状	医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務企画課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務企画課	
		高度の医療の研修の実績	総務企画課	
		閲覧実績	総務企画課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	会計課及び薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理部
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部
	に掲げる事項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務企画課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	総務企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	総務企画課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務企画課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部・病院事務部長 沖 淳一	
閲覧担当者氏名	総務企画課長 西田 浩敏	
閲覧の求めに応じる場所	医事課 医事相談室	
閲覧の手続の概要 諸記録の閲覧を申請する場合は、閲覧申請書を総務企画課に提出する。 諸記録の閲覧を許可した場合は、閲覧許可書を交付のうえ、閲覧場所において閲覧を行うようにしている。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全管理に関する基本的考え方（安全管理の体制確保という総合的観点から） ・医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項 ・医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・医療に係る安全の確保を目的とした、事故報告等の改善のための方策に関する基本方針 ・医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・患者や第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ・患者からの相談への対応に関する基本方針 ・その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・設置の有無（有・無）</p> <p>・開催状況：年12回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全上の問題が発生した場合における原因究明のため調査及び分析を行う。 (2) 医療安全管理部の業務に関することを審議する。 (3) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関することを審議する。 (4) 医療事故防止マニュアルに関することを審議する。 (5) 医療安全に資する研修の企画・立案に関することを審議する。 (6) 医療に係る安全管理のための指針に関することを審議する。 (7) その他医療安全管理に関することを審議する。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年30回
<p>・研修の内容（すべて）：e-learningによる開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「適正なインフォームド・コンセントの実施に向けて—本院の取り組み—」 ・「医療安全の基本」 ・「ベッド・ストレッチャー間の移乗の手順」 ・「MRI検査について」 ・「医療機器の安全使用」 ・「医薬品安全管理に関する情報提供」 ・「注射剤によるアナフィラキシー対策・対応」 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部署において複数診療科や多職種でM&Mカンファレンスやデスクカンファレンスを開催し、実施した医療行為や経過について振り返りを行っている。 ・各部署リスクマネジャーが問題点を分析し、改善策・影響度レベルを含め報告を行う。事例内容によっては分析方法の演習も実施し、リスクマネジャーの分析力向上を図る。 ・医療安全管理部においては、各部署から報告のあったインシデントレポートの分析状況及び影響度レベルの妥当性を複数のメンバーによりチェックし、分析が不十分なものや関連会議での検討を要するものを抽出のうえ、専任リスクマネジャーが調査し、必要に応じて関連会議で検討する。 ・検討については、主に医療安全管理委員会で検討するが、必要に応じワーキンググループを設置して改善策を検討のうえ、リスクマネジメント担当者会議で検討する場合もある。また、更 	

なる検討が必要と認められる事例は、院内医療問題調査委員会に諮る。

- ・院内には転倒・転落防止対策チームがあり、毎月定例会議を開催して各部署の毎月の発生件数と分析内容を会議で報告し、転倒・転落防止への取り組みを行っている。
- ・医療安全管理部のコアメンバーによるチームミーティングを週一回開催し、重要な事例や気になる事例についての問題点の分析を行っている。
- ・医療機器の不具合情報、医薬品による副作用報告等を医薬品医療機器総合機構（PMDA）に報告する。
- ・インシデントによる早急な改善策や注意喚起、周知を図るためリスクマネジメントニュースを発行している。
- ・病棟巡視を行って、その結果を病棟に示し、注意・改善を促している。
- ・検査依頼医に連絡が必要な読影所見に対して適切な対応が取られたかを確認し、できていない場合は検査依頼医と検査結果報告書確認責任者に対し注意喚起している。
- ・放射線・病理・内視鏡検査報告書の作成から14日以上「未読」の状態が続く場合は、医療安全管理部から各部署の長に通知している。
- ・報道された医療事故等の要約を全部署に配布し、事故防止について注意喚起している。
- ・医療事故調査制度について、医療安全管理研修会を開催して病院職員へ周知を行っている。
- ・医療安全管理部において死亡事例個人票を作成して全死亡症例の把握と検証を行っている。さらに、事例の検証結果（医療事故調査制度への該当の有無を含む）を各部署長宛に送付し、双方で確認を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の発生及びその感染経路の調査に関すること 2. 感染予防に係る情報の収集に関すること 3. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること 4. 感染症発生時の措置に関すること 5. 院内職員の教育及び啓発に関すること 6. 消毒剤等の使用に関すること 7. その他感染予防に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年23回
<p>・研修の内容（すべて）：すべてe-learningでの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の院内検査について ・標準予防策と感染経路別予防策 ・薬剤耐性（AMR）問題と対策 ・抗菌薬の適正使用 	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
・その他の改善のための方策の主な内容：

1. 感染情報レポートは、週報（毎週1回）、月報（毎月1回）、年報（毎年1回）作成し、MRSA、基質拡張型β-ラクターゼ産生菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、クロストリジオイデス・ディフィシル菌、インフルエンザ、ノロウイルス、結核菌などの検出状況を示している。
2. 感染管理部レポートは毎月1回作成し報告している。
 - ①MRSAサーベイランス：感染と保菌、院内発生と持込の発生状況
 - ②速乾性手指消毒薬使用状況：入院患者1人あたりの1日使用回数
 - ③血液培養陽性例：コンタミネーションの有無、ショックの有無、14日後の予後など
 - ④抗菌薬使用状況：抗MRSA薬とカルバペネム系抗菌薬のAUD、周術期予防的抗菌薬の使用状況など
3. これらの情報は、ベースラインを把握し、状況に応じて現場に出向き感染対策を徹底することによって、アウトブレイクの予防と早期察知に役立て、さらに感染対策実施状況の評価に活用している。
4. 感染管理部に報告が必要な病原体として、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、バンコマイシン耐性腸球菌、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌、クロストリジオイデス・ディフィシル菌、感染性胃腸炎、食中毒、結核および結核の疑い、インフルエンザ、麻疹、水痘・带状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、百日咳、疥癬をあげている。
5. 診療科、病棟、外来、検査部から専任看護師に報告があれば、状況に応じて下記対応を行う
 - ① 専任看護師は部署に出向き、患者発生状況を調査する
 - ② 感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する
 - ③ 接触者（患者、面会者、医療従事者）を確認し、必要な予防策を講じる
 - ④ 医師、看護師、感染管理部合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る
 - ⑤ 随時専任看護師から感染対策委員会委員長に報告する
 - ⑥ 各診療科、病棟から所属長に報告する
 - ⑦ 必要に応じて保菌者スクリーニング、環境培養、詳細な疫学調査を実施する
6. 週1回、感染対策ラウンド
7. 抗菌薬適正使用支援カンファレンスの実施およびICUカンファレンスへの参加

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>1. 麻薬・向精神薬の使い方（1回、対象：研修医） 2. 2020年度 医療安全管理研修会 「医薬品安全管理に関する情報提供」（e-learning研修 2020/10/30-2021/3/31、対象：全職員）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成（有・無） ・手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項 4. 患者に対する与薬や薬剤管理指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係わる情報の取扱いに関する事項 6. 院内特殊製剤の取扱いに関する事項 7. 他施設（医療機関・薬局等）との連携に関する事項 8. 医薬品安全性情報等の管理体制の充実に関する事項 9. 放射性医薬品の取扱いに関する事項</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 新型コロナウイルス感染症に対するファビピラビルの適応外使用 新型コロナウイルス感染症に対するトシリズマブの適応外使用 等 全24件</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>（情報収集の方法 ※未承認等の医薬品の情報その他の情報の収集） ①添付文書情報（医療用医薬品） ②添付文書情報（一般用医薬品） ③注射剤の配合変化 ④緊急安全性情報（イエローレター） ⑤安全性速報（ブルーレター） ⑥医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行） ⑦薬品安全対策通知 ⑧使用上の注意の改訂情報 ⑨厚生労働省発表資料（医薬品等関連） ⑩DSU（医薬品安全対策情報）⑪急性中毒情報ファイル ⑫重篤副作用疾患別対応マニュアル ⑬妊婦授乳婦と薬 ⑭回収情報（医薬品）等を参考とする。</p> <p>（情報の周知方法） ・全学グループウェアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照（MDview） ・院内通知文書 ・DIニュースの発行 ・各種勉強会、講習会等 ・病棟担当薬剤師により各病棟、診療科のカンファレンス等にて連絡を行う。</p>	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年191回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員、新人看護師、研修医等を対象に、医療機器の安全使用において技術の習得が必要と考えられる機器について、適正な安全使用に関する研修、インシデント対策等に関する研修、新規導入機器の仕様及び使用方法に関する研修等を実施。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期点検等を適切に実施できるよう、予め保守点検計画を立案し、医療機器管理システム上で予定を管理しながら定期点検、日常点検等を実施している。なお、定期点検の期間については、本院における機器の使用において、有効性及び安全性が担保される期間を機器毎に設定し実施している。(1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月、4ヶ月、6ヶ月、1年) ・院内での実施が困難な機器点検・修理については、メーカーに外部委託し、実施している。 ・機器に関する情報については、機器管理システムの台帳にて、機器名、製造番号、点検・修理履歴、保守点検予定日等を機器毎にシステム管理している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器製造販売業者、関連学会、医薬品医療機器総合機構等から収集した安全情報を病院の電子掲示板を用いて、どのPC端末からでも観覧できるように整備し、情報の周知を図っている。また、緊急を要する内容については、臨床工学技士等が直接関係部署等に出向き、現場スタッフに説明を行い迅速な情報の周知を行っている。さらに、院内で発生した医療機器のインシデント報告に対して、その安全対策、対応策等を検討し、研修会やリスクマネジメントニュース等で周知を実施している。 ・院内で確認された医療機器の不具合については、医療安全管理担当者等に報告を行い、必要に応じて、医薬品医療機器総合機構に医療機器安全情報として報告を行っている。 ・未承認機器及び適応外使用を行う機器については、医療安全管理部 医療機器安全管理部門にて、院内での使用に関して安全性及び有効性が担保されていることを評価した上で、臨床使用するようにしている。 ・スタッフの研修用資料として、機器の安全使用に関する動画を作成し、タブレット端末にて貸し出し等を行なっている 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 副病院長（医療安全管理担当）を医療安全管理責任者として配置し、その統括の下で、医療安全管理部が中心となり病院全体で組織的・継続的に安全管理に取り組んでいる。 ・ 副病院長（医療安全管理担当）及び医療安全管理委員会委員長は、医療安全管理部長をもって充てることとし、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の構成員として医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を配置している。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成。 ・ 医療従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施。 ・ 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施。 ・ 医薬品の安全使用のため必要となる情報の収集。 ・ 医薬品の安全確保を目的とした改善のための事例評価と方策の実施。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 添付文書情報（医療用医薬品）、添付文書情報（一般用医薬品）、注射剤の配合変化、緊急安全性情報（イエローレター）、安全性速報（ブルーレター）、医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行）、薬品安全対策通知、使用上の注意の改訂情報、厚生労働省発表資料（医薬品等関連）、DSU（医薬品安全対策情報）、急性中毒情報ファイル、重篤副作用疾患別対応マニュアル、妊婦授乳婦と薬、回収情報（医薬品）等を参考に情報収集を行う。 ・ 病院運営委員会等の各種委員会での報告、全学グループウェアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照（MDview）、院内通知文書、DI ニュースの発行、各種勉強会、講習会等、病棟担当薬剤師より各病棟、診療科のカンファレンス等で情報の周知を行う。 ・ 担当者の指名の有無 (有) ・ 無 ・ 担当者の所属・職種：(所属：薬剤部, 職種 薬剤師) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の実席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) 無 ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明書・同意書監査部会を設置し、新規に作成された説明同意書の標準説明内容の監査を実施している。また、医療安全のカルテレビューやPeer review（同僚間監査）、退院時記録監査等で電子カルテから発見・報告され、監査部会メンバーより要改訂と判断された説明書についても、7つの確認項目が記載されているかを基本として「決められた事項が網羅されているか」「内容に妥当性があるか」「患者が理解できる言葉で記載されているか」を中心に確認し、見直しが必要な箇所などをわかりやすく記載した改訂依頼票を作成し、該当部署のIC責任者に改訂依頼を実施している。 インフォームド・コンセントに関する指針(第3版) インフォームド・コンセント実施マニュアル(第3版) 説明書・同意書の必要な具体的項目一覧 	

附記：患者署名の必要な文書に患者が署名できない場合等の取扱いについて
説明書同意書監査手順

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>○毎月、退院患者の約1割の診療録等について、同僚間監査を実施し、監査結果を各診療科に報告することにより記載内容の向上を促している。また、過去の監査結果より各診療科で改善すべき目標を立てるよう指導し、目標の改善率をあげる取り組みを行っており、改善結果を報告している。</p> <p>○略語について、入力簡素化と診療録の記録内容が多職種で理解しやすい環境を構築できるようATOKの略語辞書ファイルを実装しているが、新しい略語や現状に沿った略語に対応するため、現在見直しの最中である。</p> <p>○退院時記録監査を実施し、入院診療計画書、手術記録とその説明同意書、IC記録等について確認し未完成の場合は、作成依頼を実施している。また、同意書や計画書等の署名の確認と保管の必要な書類がスキャンされているかを確認し、未完成の場合は、該当文書の検索と必要に応じて、カルテ記載による補完を依頼している。</p> <p>○説明書同意書監査部会と連携し雛型説明書の説明内容の監査を行っている。説明内容が不十分な場合は、その監査内容とともに改定依頼を行い、作成診療科により改定が実施されている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（6）名、専任（0）名、兼任（16）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 （2）重要な検討内容について、患者への対応状況を含め病院長へ報告すること。 （3）重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図ること。 （4）医療事故の防止及び対策に係る調査・分析に関すること。 （5）改善策を立案すること。 （6）改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。 （7）安全管理に関する教育・研修に関すること。 （8）安全管理に関する連絡調整に関すること。 （9）高知大学医学部附属病院医療安全管理委員会の事務に関すること。 （10）高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること。 （11）未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること。 （12）その他安全管理に関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> <p>・医療安全管理部コアメンバーによるチームミーティングを週に1回開催し、各部署から報告のあったインシデント事例に関するモニタリングを行っている。</p> <p>・死亡事例個人票を作成して全死亡症例の把握と検証を行っている。さらに、事例の検証結果（医療事故調査制度への該当の有無を含む）を各部署長宛に送付し、双方で確認を行っている。</p> <p>・医療安全管理研修会におけるアンケート調査および研修受講後の小テスト実施により医療安全に関する意識の向上を図るとともに、職員の医療安全の認識についてモニタリングを行っている。また、院内ラウンドの際に確認している。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・医療安全管理部に新規医療技術安全管理部門を置き、院内における高難度新規医療技術（本院で実施したことのない医療技術を含む）を用いた医療の実施に関する申請があった場合は、当該部門において実施の適否・使用条件等を確認し、高難度新規医療技術審査委員会に意見を求める。
 - ・部門は、委員会の意見を踏まえて実施の適否、条件等について決定し、その結果を診療科等の長、病院長、医療安全管理部長及び倫理委員会委員長に通知する。
 - ・診療科等から実施報告書が提出された場合には、診療記録の記載内容等を確認して申請内容に基づき適正に実施されていたかどうか確認する。安全性や有効性についても検証し、その結果を病院長及び医療安全管理部長に報告するとともに診療科等の長に通知する。
 - ・高難度新規医療技術を施行した患者については、退院後も長期的なモニタリングを実施する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（27件）、及び許可件数（25件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・医療安全管理部に医薬品安全管理部門及び医療機器安全管理部門を置き、院内における未承認・適応外の医薬品及び医療機器（医療材料を含む）を用いた医療の実施に関する申請があった場合は、当該部門において実施の適否・使用条件等を確認し、高難度新規医療技術審査委員会に意見を求める。
 - ・部門は、委員会の意見を踏まえて実施の適否、条件等について決定し、その結果を診療科等の長、病院長、医療安全管理部長及び倫理委員会委員長に通知する。
 - ・診療科等から実施報告書が提出された場合には、診療記録の記載内容等を確認して申請内容に基づき適正に実施されていたかどうか確認する。安全性や有効性についても検証し、その結果を病院長及び医療安全管理部長に報告するとともに診療科等の長に通知する。
 - ・未承認・適応外の医薬品及び医療機器を用いた医療を施行した患者については、退院後も長期的なモニタリングを実施する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年148件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年201件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・報告のあったインシデント及びオカレンスの分析及び影響度レベルの判定に関することを審議する。
 - ・判定した影響度レベルが3b以上のものについて、院内医療問題調査委員会の要否に関することを審議する。
 - ・インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関することを審議する。
 - ・デスクカンファレンス報告書、オカレンス報告及びM&Mカンファレンス報告書の提出状況を確認する

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：愛媛大学医学部附属病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：徳島大学病院）・無
- ・技術的助言の実施状況
 - ・徳島大学病院からの高難度新規医療技術における質問事項「緊急申請時の審査方法」「1件の申請につき開催される部門会議について」「各部門の構成員の職種や職位」「病院長への報告時期及び病院長からの疑義や否認があった場合の対応」について確認し、回答した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

平成15年4月1日に「高知医科大学医学部附属病院患者相談窓口取扱要領」を制定するとともに、病院玄関インフォメーションに患者相談コーナーを設けた。その後、平成15年10月1日に旧高知大学との統合及び平成16年4月1日の国立大学の法人化に伴う改廃を経て、現在に至る。

相談コーナーに寄せられた事由に対して必要に応じて看護師、専任リスクマネージャー、医療ソーシャルワーカー、医学部・病院事務部事務職員が単独あるいは複数で対応している。また、相談コーナー以外でも電話、病院ホームページ、投書箱（院内14箇所設置）に寄せられた相談等にも対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
 - ・「医療機器の安全使用」
 - ・「注射剤によるアナフィラキシー対策・対応」

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況
 - ・ 管理者
2020.10.15 2020年度特定機能病院管理者研修
 - ・ 医療安全管理責任者
2020.11.11 2020年度特定機能病院管理者研修
 - ・ 医薬品安全管理責任者
2021.2.14 2020年度特定機能病院管理者研修
 - ・ 医療機器安全管理責任者
2020.12.10 2020年度特定機能病院管理者研修

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・ 第三者による評価の受審状況
 - ・ (公財)日本医療機能評価機構の病院機能評価「3rdG:Ver.2.0」を受審し、審査の結果、認定基準を達成していることが認められ、2021年5月7日付で認定証が交付された。
- ・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況
 - ・ 該当なし
- ・ 評価を踏まえ講じた措置
 - ・ 該当なし

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

学識が優れ、教育研究、診療及び病院経営に関する識見を有する者で次に掲げる要件をすべて満たすものとする。

- (1) 医学部専任担当の教授又は教授予定者（国立大学法人高知大学職員就業規則の適用を受ける教授若しくは教授予定者又は国立大学法人高知大学特任職員就業規則の適用を受ける特任教授若しくは特任教授予定者に限る。）であって、2年の任期を務めることが可能な者
- (2) 医師免許を有する者
- (3) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者
- (4) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有する者

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

- ・ 大学HP

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学部附属病院HP 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
辻田 宏	理事(総務・財務・企画担当)	○	医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	有・無
本家 孝一	理事(研究・評価・医療担当)		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	有・無
北岡 裕章	医療学系長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第2号に基づく役職指定者	有・無
菅沼 成文	医学部長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第2号に基づく役職指定者	有・無
多田 邦子	看護部長(副病院長)		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第4号に基づく医学部附属病院から選出	有・無
山中 茂雄	臨床検査技師長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第4号に基づき医学部附属病院から選出	有・無
岡林 弘毅	高知県医師会長 県庁前クリニック 院長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく学外有識者 医学・医療について豊富な経験と高い識見を有し、医療安全管理についても造詣が深い。	有・無
島田 安博	高知県・高知市病院 企業団立高知医療 センター病院長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく学外有識者 企業経営について、幅広く豊富な経験と高い識見を有し、高知県の経済事情や課題等にも精通している。	有・無
鎌倉 昭浩	高知県健康政策部長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく学外有識者 高知県の医療に係る担当責任者として、保健・医療・福祉全般に豊富な知見を有している。	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病院の運営方針に関すること。 (2) 病院の中期目標・中期計画に関すること。 (3) 病院の人事・予算に関すること。 (4) その他委員会が必要と認める事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員用掲示板にて周知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・大学HP ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・(無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
執印 太郎	○	医師	病院長
内田 一茂		医師	診療科長
寺田 典生		医師	診療科長
横山 彰仁		医師	診療科長
小島 研介		医師	診療科長
北岡 裕章		医師	診療科長
古谷 博和		医師	診療科長
藤枝 幹也		医師	診療科長
數井 裕光		医師	診療科長
佐野 栄紀		医師	診療科長
山上 卓士		医師	診療科長
木村 智樹		医師	診療科長
花崎 和弘		医師	診療科長
三浦 友二郎		医師	診療科長
穴山 貴嗣		医師	診療科長
河野 崇		医師	診療科長
前田 長正		医師	診療科長

池内 昌彦		医師	診療科長
福田 憲		医師	診療科長
兵頭 政光		医師	診療科長
上羽 哲也		医師	診療科長
井上 啓史		医師	診療科長
山本 哲也		歯科医師	診療科長
村上 一郎		医師	診療科長
北岡 智子		医師	診療科長
山岸 由佳		医師	診療科長
西山 謹吾		医師	中央診療施設部長
瀬尾 宏美		医師	中央診療施設部長
高橋 秀俊		医師	中央診療施設部長
小林 道也		医師	中央診療施設部長
杉本 健樹		医師	中央診療施設部長
武政 龍一		医師	中央診療施設部長
奥原 義保		教員	医学情報センター長
宮村 充彦		薬剤師	薬剤部長
多田 邦子		看護師	看護部長
伊東 賢二		診療放射線技師	医療技術部長
北川 博之		医師	手術部副部長
永野 靖典		医師	リハビリテーション部副部長
耕崎 拓大		医師	内視鏡診療部副部長
沖 淳一		事務職	事務部長
菅沼 成文		医師	医学部長
藤本 新平		医師	教授
阿波谷 敏英		医師	寄附講座教授
大畠 雅之		医師	特任教授
徳弘 慎治		臨床検査技師	技師長
村上 武		臨床工学技士	技士長
細田 里南		理学療法士	技士長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
 - ・ 大学HP
- ・ 規程の主な内容
 - ・ 診療科長などの病院の役職者を任命し、また解任することができる。
 - ・ 附属病院の予算責任者として、附属病院の予算の執行について、権限と責任を有する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長4名：各々、総務、医療安全管理、病院実務、地域医療連携を担当
 - ・ 病院機能強化戦略推進室：医学部附属病院における医療及びサービスの質向上や病院機能強化のための戦略・施策の立案及び院内ラウンド等の内部チェックの実施を通じ、医学部附属病院のクオリティマネジメント及び病院機能強化に資することを目的とする。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 経営分析室、地域医療支援室を設置

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査を行う。 ・ 学長又は病院長に対して、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるよう意見を表明する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：本院 HP に公表 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の 要件 該当状況
吉川 清志	土佐希望の家 医療福祉センター施設長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
中西 法貴	中西・高野法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・(無)	1
西脇 永敏	高知工科大学 環境理工学群 教授		学識経験を有する者	有・(無)	1
井上 正典	公益財団法人 高知県看護協会 事務長		医療を受ける者その他の 医療従事者以外の者	有・(無)	2
瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院 総合診療部 教授		学長が必要と認めた者	(有)・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
 - ・高知大学コンプライアンス通報相談窓口を設置している。

- ・専門部署の設置の有無（有・無）
- ・内部規程の整備の有無（有・無）
- ・内部規程の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法
 - ・病院HP

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
 - ・ 学長を議長とする経営協議会に医学部附属病院長が委員として参加し、附属病院の運営等に関して、委員から意見を聴く機会を設けている。
- ・ 会議体の実施状況（年4回）
 - ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（年4回）
 - ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）
 - ・ 公表の方法
 - ・ 大学HP

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人高知大学経営協議会

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
櫻井 克年	学長	○	有・無
辻田 宏	理事		有・無
岩崎 貢三	理事		有・無
本家 孝一	理事		有・無
受田 浩之	理事		有・無
宮井 千恵	理事		有・無
執印 太郎	医学部附属病院長		有・無
岩瀬 公一	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター		有・無
岡村 昭一	高知県		有・無
河合 雅司	(一社)人口減少対策総合研究所		有・無
川村 晶子	富士通株式会社西日本営業部四国支社		有・無
中澤 慎二	高知市		有・無
中島 和代	(株)なかじま企画事務所		有・無
野並 誠二	医療法人野並会高知病院		有・無
原 正紀	(株)クオリティ・オブ・ライフ		有・無
山崎 道生	(一社)高知県工業会		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">・ 病院HPに掲載、部署リスクマネージャーを通して周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>高知大学医学部附属病院ホームページ内の「患者さんへ」、「広報活動」、「病院案内」において、情報発信を行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>* がん治療センター 複数の診療科で行われている「がん診療」、「緩和ケア」、「外来化学療法」などを一元的に管理し、それぞれの機能が充分発揮されるよう企画調整を行っている。</p> <p>* 内視鏡診療部 各疾患分野で内視鏡を用いた診断と治療を専門に行う部門を独立統括し、各診療科との連携を円滑にすることで、内視鏡を用いた専門的な診断と治療の需要に柔軟に対応している。</p>	